飛騨一宮水無神社



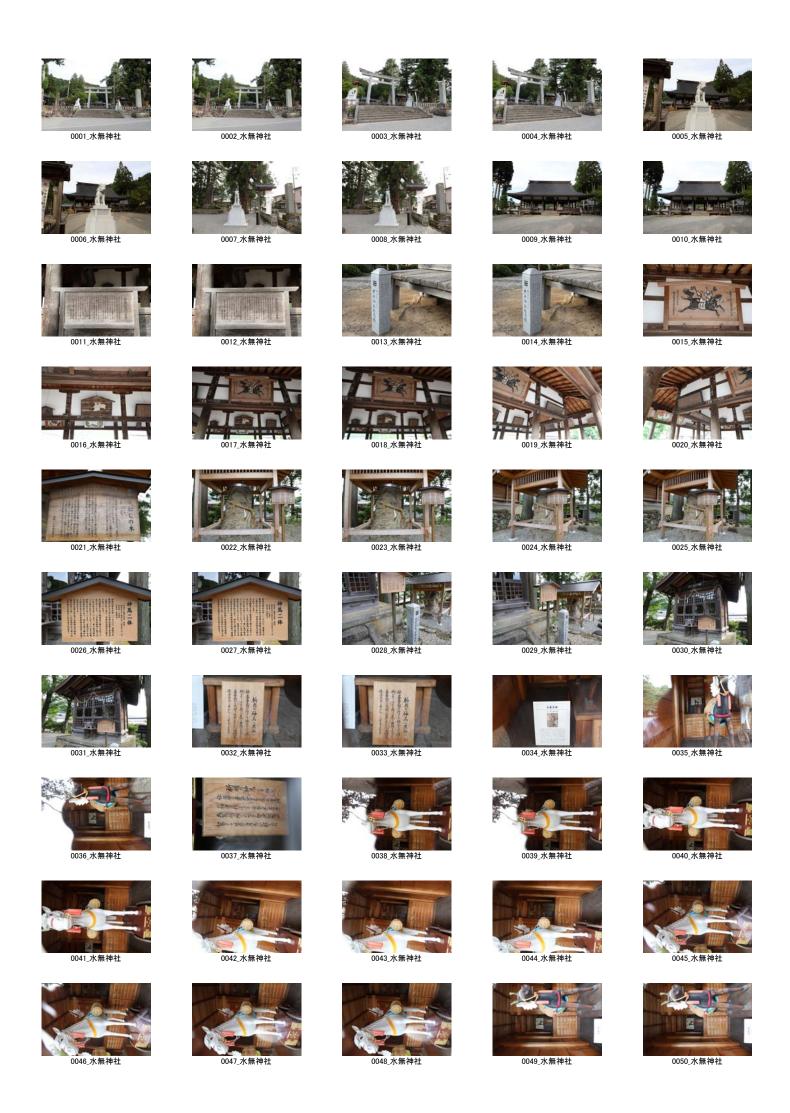
http://digitalarchiveproject.jp/information/飛騨一宮水無神社/

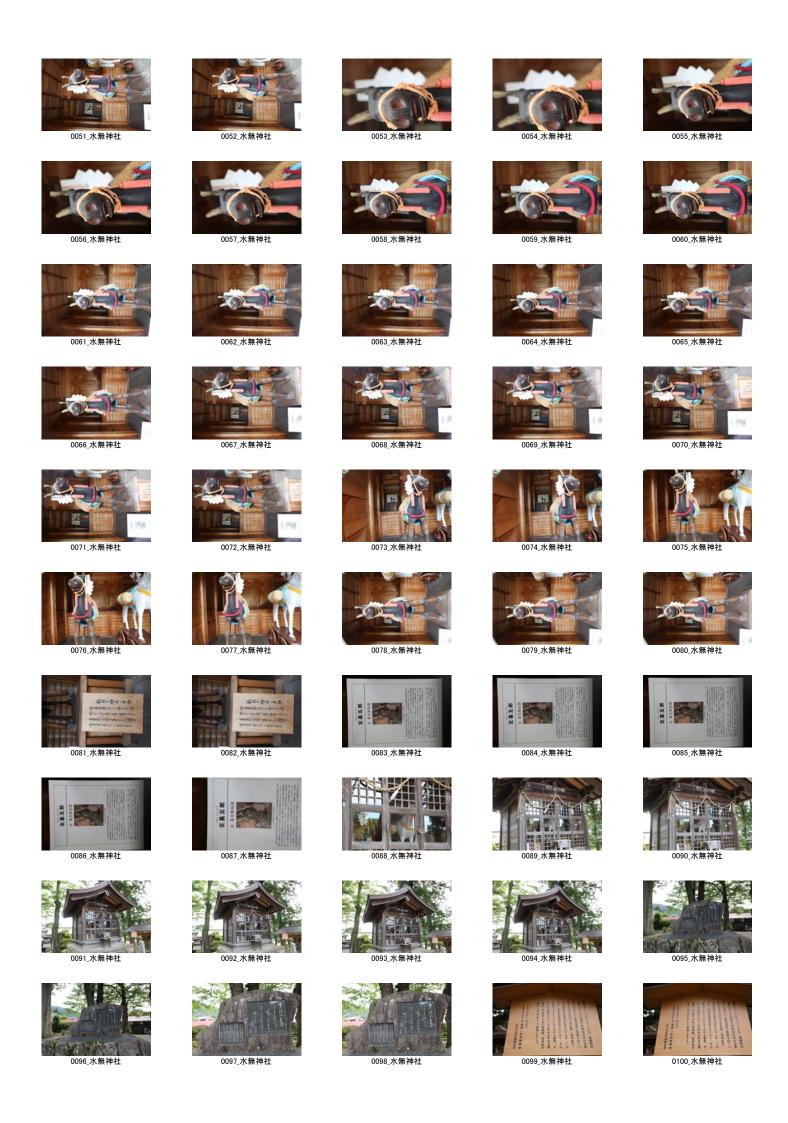


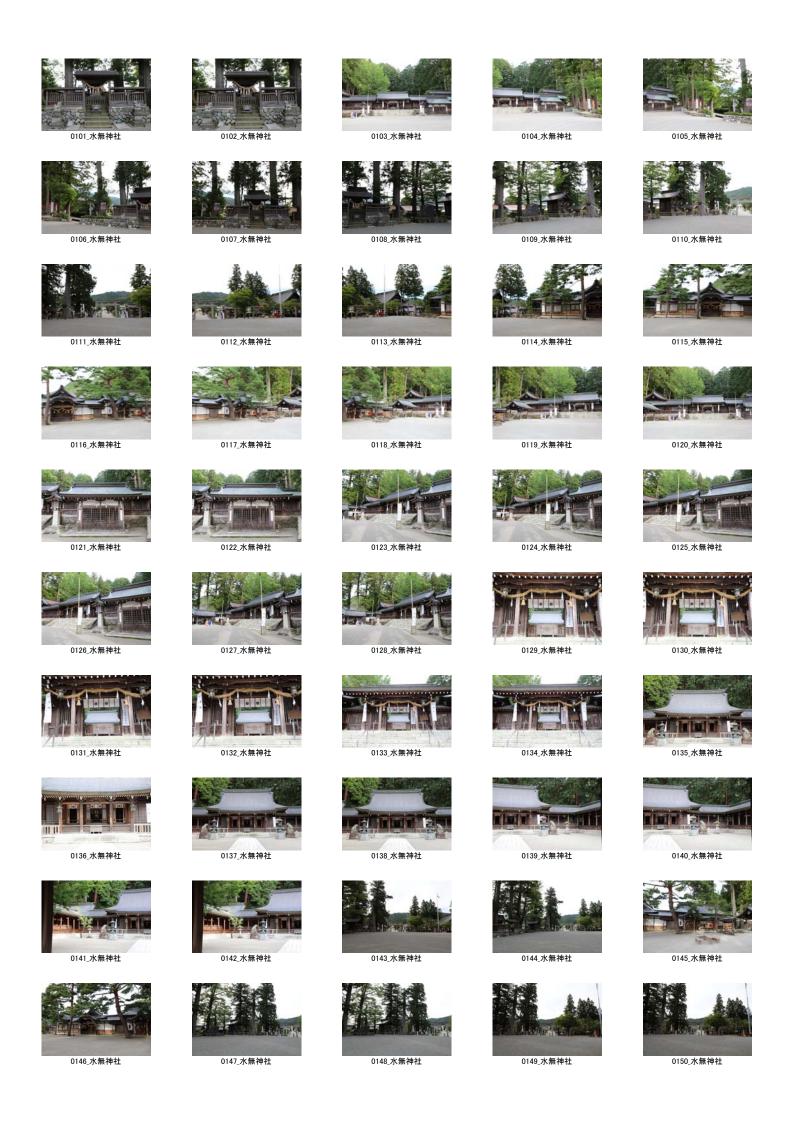
飛騨一円を崇敬者とし、除夜祭・歳旦祭は飛騨一円を始め県内外からの参拝者が多い。 例祭は 5 月 2 日、ひなまつりは 4 月 3 日で日本唯一の「生きびな祭」として有名である。 創立年代は不詳、祭神は水無(みなしの)大神など、位山を「神体山」としている。

第 38 代天智天皇の 8 年(669)、位山の櫟(あららぎ)材で作られた笏を朝廷に献上してから、櫟(あららぎ)に一位の樹名を賜わり、山は位山と称するようになった。第 45 代聖武天皇の天平 12 年(740)、天皇の仮宮殿において、近江国の新羅楽・飛騨楽が奏された。いま一之宮に「神代踊」として伝存する。第 46 代孝謙天皇の天平勝宝年中(750~)、飛騨国造高市(たけち)麿(まろ)が上奏して、当神社は国の「一宮(いちのみや)」と定められた。第 60 代醍醐天皇の延長 5 年(927)には延喜式が出来、神祇官神名帳に飛騨国 8 座の首班に列し、国の総社をも兼ね、国司は毎月巡拝して幣帛(へいはく)を奉(たてまつ)ることとなる。第 76 代近衛天皇の仁平元年(1151)、大江朝臣橘助高卿が一宮の神主に補任(ぶにん)され、神主家としてしばらく続いた。第 96 代後醍醐天皇の建武 2 年(1335)、国司姉小路家綱卿より、位山一位の御笏を献上し、天皇より御冠・袍・笏等の下賜があり、一宮に納める。天正 13 年金森長近が飛騨に攻め入り、三木・一宮・山下の神主家の主流が討たれたが、子孫が継続して神主家をつないでいる。

参考文献『飛騨の神社』

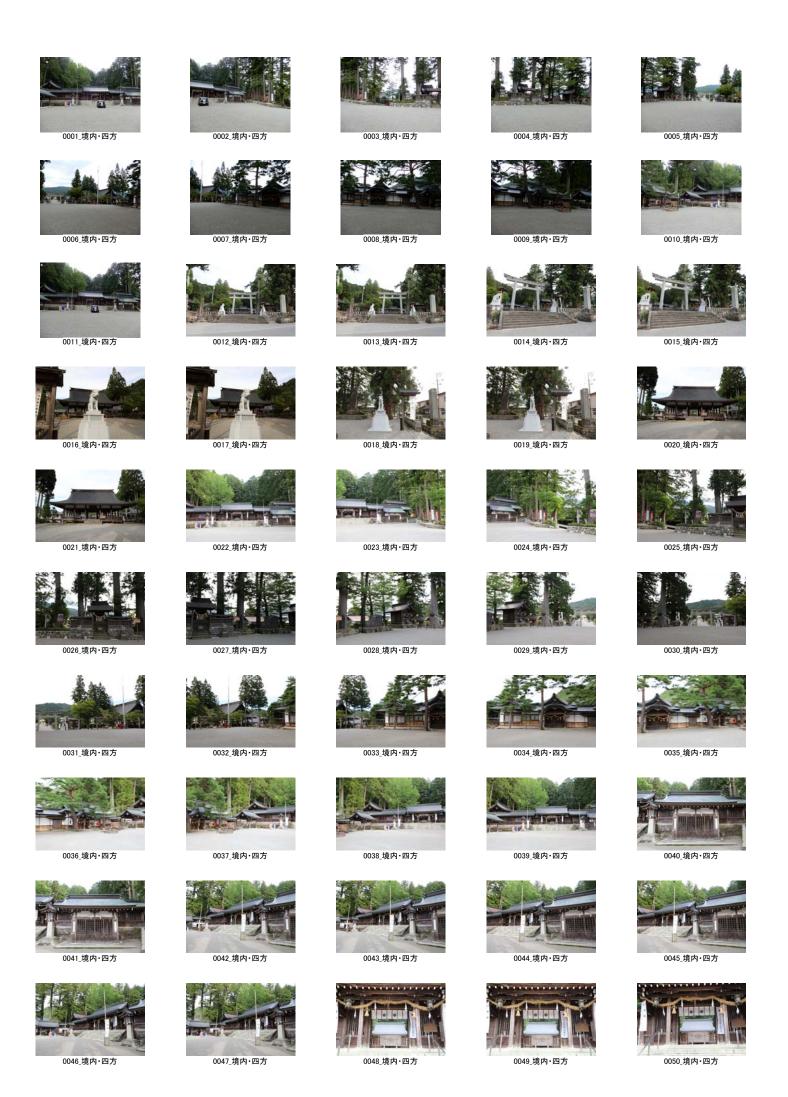


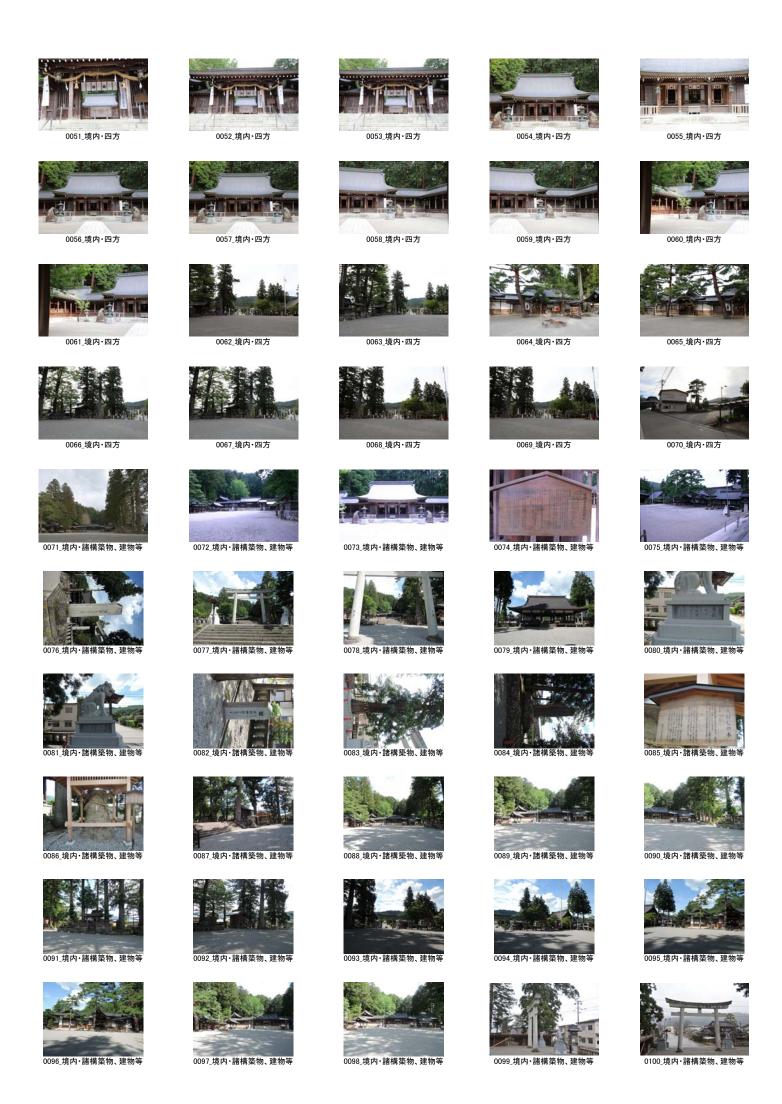


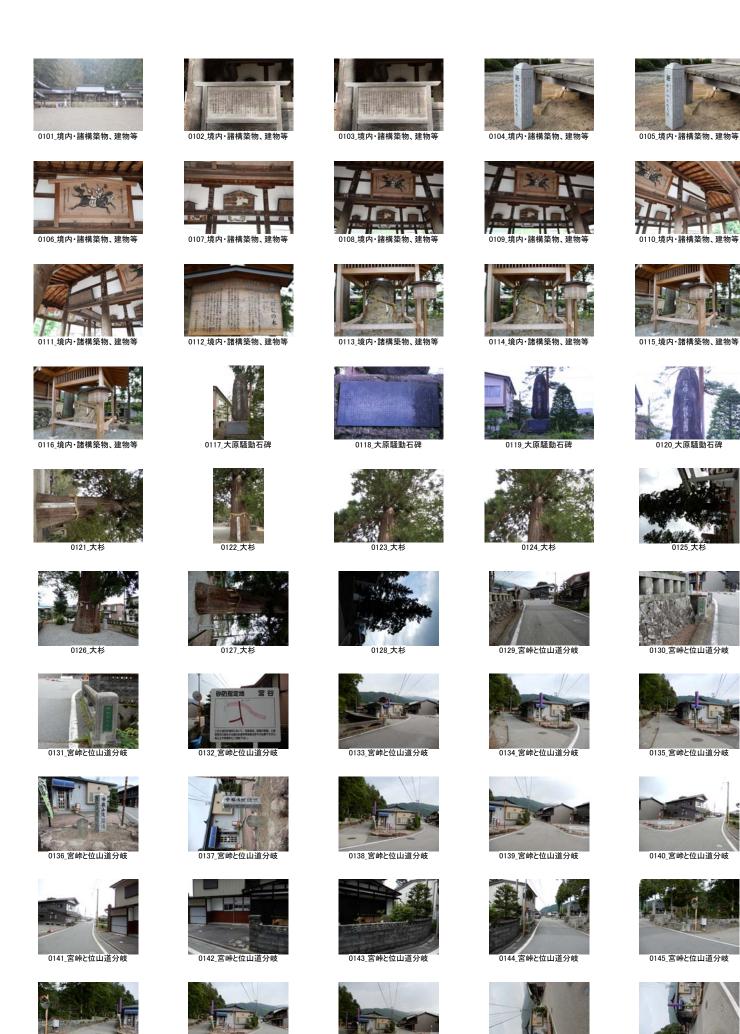




0151_水無神社







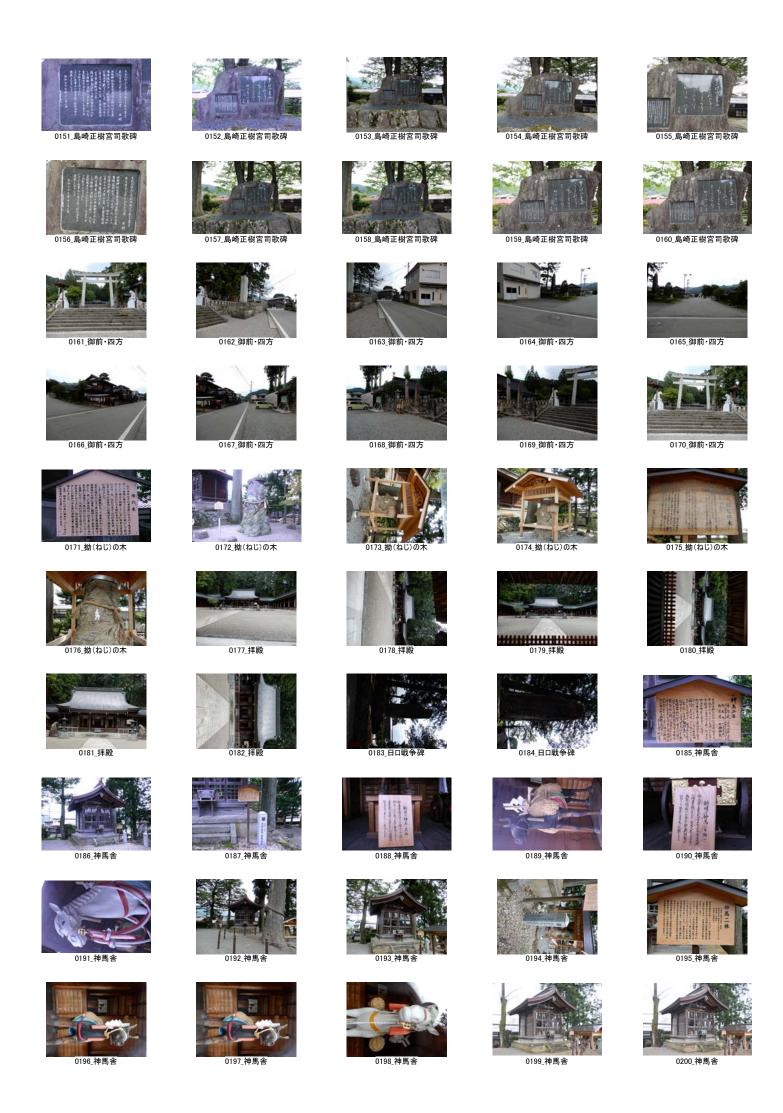
0148 宮峠と位山道分岐

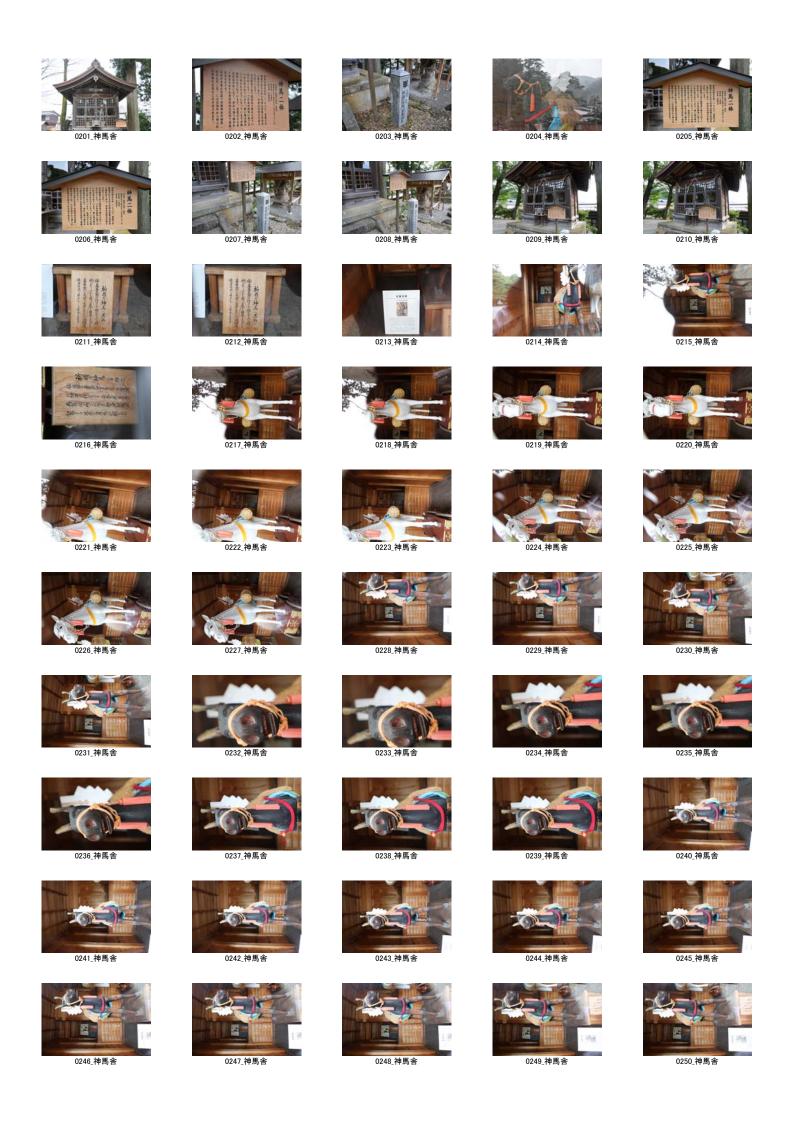
0149 宮峠と位山道分岐

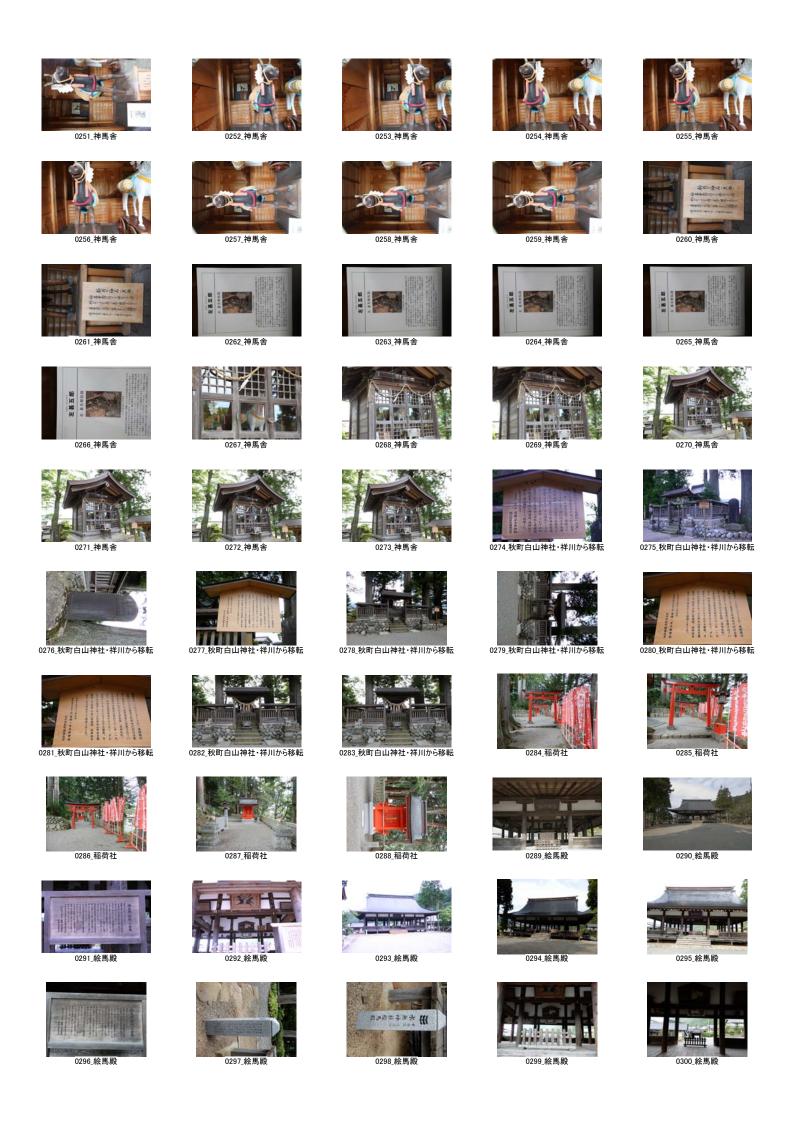
0147_宮峠と位山道分岐

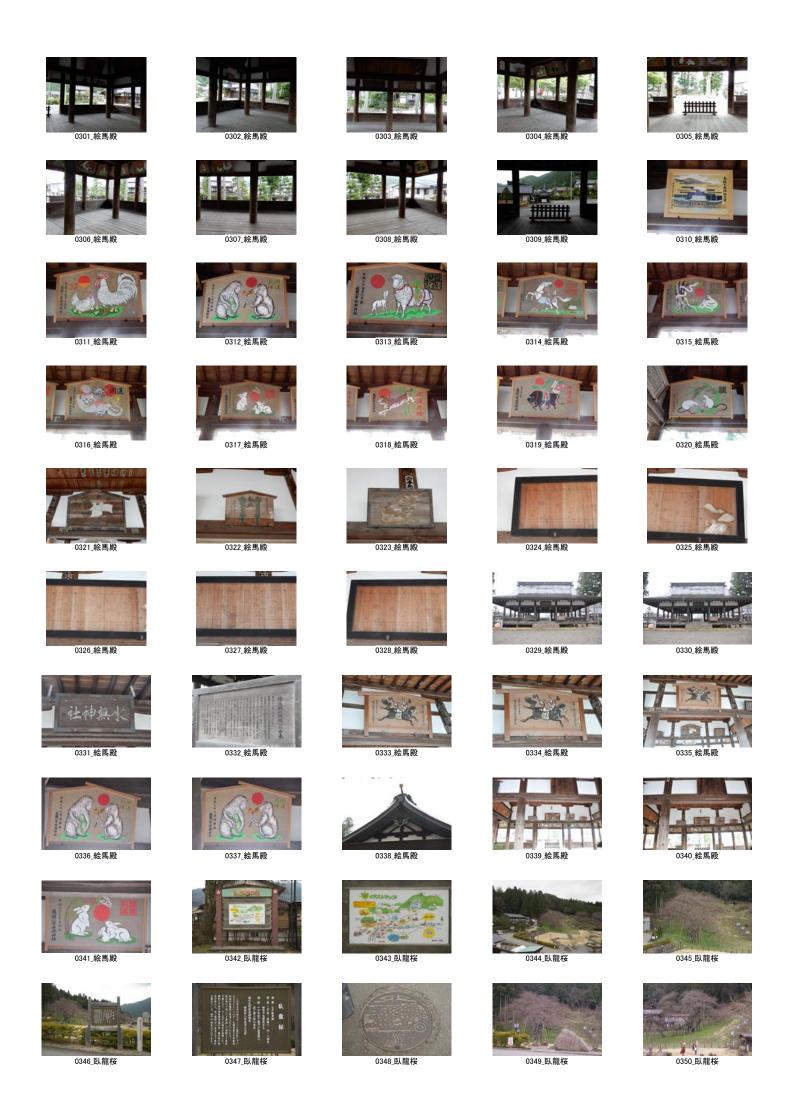
0150 宮峠と位山道分岐

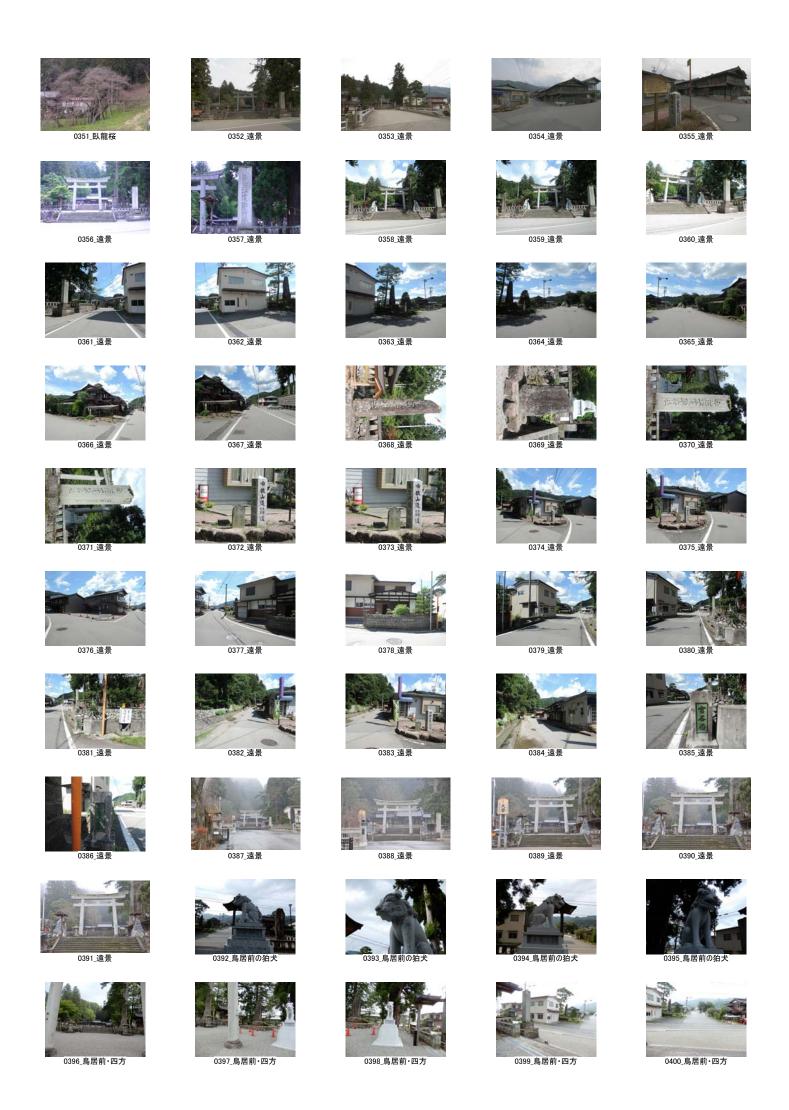
0146_宮峠と位山道分岐



















·四方 0404_鳥居前·四方